

世界的にも貴重な古材などを展示販売するユニークな店舗「WORLDDECORS」。2月15日のオープニングセレブーションでは、エスクリの渋谷守浩社長と、空間デザイナーとして数多くの人気会場を手がけてきたザホールデザイン(東京都目黒区)杉山敦彦氏によるトークセッションも開催。空間デザイナーの視点から、素材へのあくなきこだわりと、それを実現できるマテリアル専門店の意義を語った。古材、マテリアルに対する渋谷社長の熱い想いは、ブライダル、商業空間デザインにも大きな影響を与えるそうだ。

Talkセッション

歴史ある古材と結婚式の親和性

デザイン・マテリアルへのこだわりが施設の価値を高める

年月を重ねた貴重材

—新たにオープンした、マテリアル専門店の意義とは。

渋谷 「最近は、新規材を使うケースが増えています。自然素材のマテリアルが大好きな私からすると、人工的な新規材は魅力のない素材です。便利、安いなどの側面から利用が増えていく中で、もっといいものがあることをデザイナーや消費者など多くの人に発信していくことです。素材から利用が増えていくことで、もっといいものがある中で、もっといいものがある」と、その想いを語る。

山さん「私自身も古材が大好きで、オフィスにも古材の一枚板を使つたテーブルを入れています。ただ、空間デザインをする際、施工費が高騰し予算が厳しいなどと言われ、なかなか本物の素材を使えないことがあります。そうした状況について、この店に置いてある古材を見てみると、現在進行形のプロジェクトでもこいつ風に使いたいなど、ワクワクしてきます。」

—自然素材が予算などの兼ね合いで使いにくい環境です。ただ、古材を使うことで、【パワー】も生み出せるのですが。

渋谷 「店には、非常に珍しい数1000年以上経った木化石を置いています(非売品)。触れてもうと分かりますが、どう見ても石の塊なのに、実は木です。私自身が、古材に注目したきっかけであります。どうしてチーク材が腐らないかというと、土の中の石灰の成分を木が吸つて、固くなっていくわけです。そもそも人間は100年生きられるかどうか。それに対し、木化石は土の中の石灰を吸つて長生きしている、まさに生命のパワーワーの塊です。ウェディング施設に關して言えば、新郎新婦の誓いです。古材を使うことでチャペルにもパワーを充満し、そこで愛を誓ってもらいます。」

杉山「日本人の多くがキリスト教徒でもない無宗教です。だからこそチャペルも、従来の考え方から突き抜けたデザインが出来るわけです。日本において何が大事かというと、自然崇拜と先祖崇拜。ここを押さえておけば、多くの人に受け入れられます。結婚式場の空間デザインにおいて、パンケットは日常の最高級を作るという考え方です。一方、チャペルは全く異なり、誓いの場というまさに非日常空間を作っています。木化石のような数千年を経過した一見石感のあるチーク材は、素材そのものが触れる機会が少ない非日常のモノ。そういう素材を使うことで、非日常空間をより演出できるわけです。」

渋谷 「この木化石が日本にあること自体が珍しいです。たまたま海外で手に入れました。ダイヤモンドが出来る以上に時間がかかるとも言われ、パワーのあるものですから、是非触れてみてください。(笑)」

空間デザインは【商品】

—商業施設の素材にストオリーや歴史があれば、それだけで空間にもストーリーが生まれます。

渋谷 「安普請の店というのは、料理、サービスも安っぽくなってしまうがちです。きちんとされたデザインとマテリアルがあることで、そこに価値が生まれます。もっとも、ただお金掛け

ればいいかというのも違います。高い大理石を張るのが大事ではなく、例えばそれよりも安く仕上げられる、チークの皮だけ壁を作り存在感を出していく。大切なことは、なぜそのマテリアルを選んだのかであり、それをオーナーが社員たちにしっかり伝えること。そうすれば、社員たちの店に対するこだわりも変わってきます。内装施工の際に、予算内に仕上げて欲しいとおっしゃることもありますが、それよりもこの材料を使いたいと

言わせたいものです。」

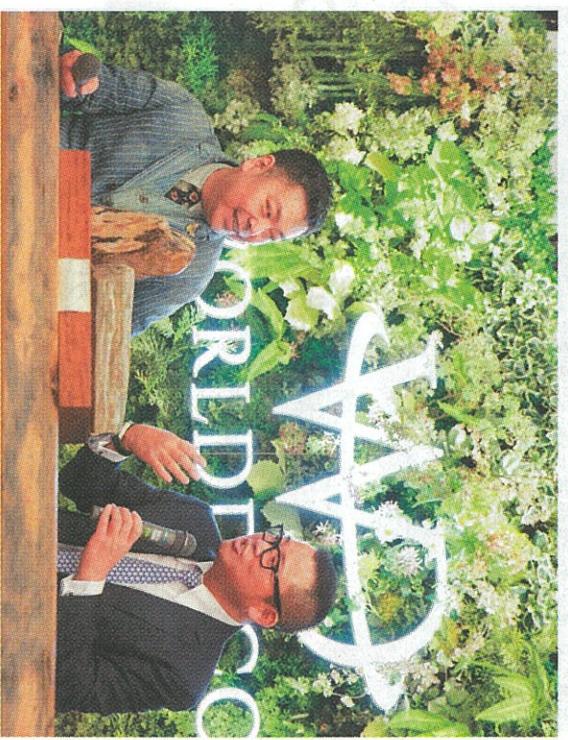
杉山「商業施設、特にウェディング、ホテル、バーなどは、空間デザインが単なる付加価値ではなく商品そのものです。だからこそ、そこそこ手を抜

かならないという点があります。つまり流行に左右されない初期投資が多少かかったとしても、長く営業していく店であればそっちの方がいいのは当然です。」

—杉山さんは、最近バーの空間デザインも増えています。

渋谷 「本当に面白いアイデアで壁を作り存在感を出していく。大切なバカラのグラスを置かれて残念に思います。顧客を上手に騙そると考えれば、やはりカウンターだけは本物を使って欲しいと思います。空間と時間を売っているからこそ、カウンターにこだわることで多少安いワインであっても、高く売れる。そこにお金をかけられないオーナーは、顧客の騙し方が下手。その点、こだわる場所の優先順位も提案していきます。」

杉山 「バーに行くと、ウイスキーを頼むことが多いのですが、シングルモルト樽の中(笑)。シングルモルト樽の中でも何年も眠っていたもので、その時間の経過を感じることが贊沢なわけです。一緒にビンテージの葉巻を楽しむなど、時間が経過した価値のあるものを堪能できるのがバーの魅力かと。そ



THE WHOLEDESIGN
代表取締役
杉山敦彦氏

THE WHOLEDESIGN
代表取締役
渋谷守浩氏



貴重な「木化石」

うした商品を提供しているのであります。空間の素材にもやはり大切な要素ですね。」

—店内には、新郎新婦がDIYを出来るウェディング工房も併設しています。

杉山「本当に面白いアイデアだと思います。店の外からも見えてるオープンラボのようなスペースは、これまでにありそうでなかった。古材のショップがユニークなものになっていくに

は、ウェディング工房がどのように育っていくかがカギになるのではないかと思います。古材の長い歴史は、人間の寿命からみれば永遠に近い。つまり結婚式とは親和性が高い素材であります。それを使ったDIYは非常に楽しみですね。結婚式の様々な変化の中で、新郎新婦のことを考えてこの取り組みは素晴らしいと思います。」

渋谷「エスクリは年間約800組を手掛けていますが、最近は若い人たちが結婚式をしなくていいという流れです。たくさんの方に祝福され誓う場が軽くない」と。まずは自分たちでDIYをして、それによって結婚式 자체に興味を持てもらえればと考えています。ウェルカムボードや親や祖父母に贈る箸、コースターなどを、数100年、数1000年を経過している端材を使ってDIYする。古材の意味を知った上でDIYをしてもらい、結婚後の30年、50年と共に過ごしていく大切さを提案していかれば。」

Worlddecors フォトギャラリー



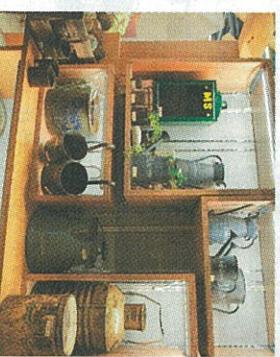
▲チーク材を始めた一枚板



▲古材を使ったデザイン



▲リースナブルなフェイクグリーン



▲各種ガーデニングアイテムも



▲店舗ではワインも紹介